

■教員の養成の目標及び当該目標を達成するための計画に関すること

○本学で取得できる教員免許状

<https://www.matsumoto-u.ac.jp/introduction/support/teaching/>

○教員養成の理念

地域の人々との協働(collaboration)能力を備えた力量ある教員 —地域に立脚し、自己の長所を活かした個性的な教員の育成—
--

松本大学は、「自主独立」の建学の精神の下、「教育・研究を通じた地域社会への貢献」を基本理念に掲げ、自主的・独立的な人間教育を行うことによって地域社会の振興と地域文化の発展に寄与する人材の育成を使命、目的としています。

このように、本学は、地域社会にどっしりと根をおろし、地域社会の将来を担う人材の育成を目指しており、それは、本学教職課程においても同様です。

○松本大学教職課程がめざす教師像

1. 大学全体

先の教員養成の理念を実現するために、本学教職課程がめざす教師像は次のとおりです。

- ① 自己の長所を伸長し、得意分野をもった個性あふれる魅力的な教員
- ② 地域社会への深い理解を土台とした、地域との協働能力を備えた教員
- ③ 「教育への情熱・使命感」などの一般に社会から教員に求められる資質・能力を身につけた教員
- ④ 専門性を磨き人間力を高めるために、教員育成指標を踏まえ常に学び続ける教員

2. 各学部・各学科

<総合経営学部>

総合経営学部

総合経営学部は、“経営”を広くとらえ、地域で生活し、地域で働き、地域に貢献し、地域とともに成長する「地域社会を経営する力」をもった人材の育成を目的としています。このような目的を踏まえ、本学部では次のような教員像をめざしています。

- ① 次世代を担う子どもたちの育成に熱意をもって取り組む、人間性豊かな教員
- ② 地域社会への深い理解に基づく「地域社会を経営する力」を備え、地域社会との協働能力をもった教員
- ③ 教育内容に関する高い専門的知識と指導力を備えた教員

総合経営学科

総合経営学科では、実社会で役立つ実践的な経営力を育成するため、企業マネジメント、

生活マネジメント、地域産業の 3 つの専門分野から成るカリキュラムを構成し、地域の企業訪問といった「アウトキャンパス・スタディ」制度などを積極的に取り入れています。これらのカリキュラムを通して、高等学校の免許教科である「商業」や「情報」に関するより専門的な知識を身につけた教員の養成をめざしています。

観光ホスピタリティ学科

観光ホスピタリティ学科では、福祉と観光をキーワードに、地域づくりに貢献できる人材を育成するため、観光マネジメント、地域政策、福祉マネジメントの 3 つの専門分野から成るカリキュラムを構成し、JA 松本ハイランド新村支部の青年部と連携した「新村ひまわりプロジェクト」といった「アウトキャンパス・スタディ」制度などを積極的に取り入れています。これらのカリキュラムを通して、中学校「社会」、高等学校「公民」に関するより専門的な知識を身につけた教員の養成をめざしています。

<人間健康学部>

栄養と運動指導の分野の知識やスキルを活かして、地域社会の方々の健康の維持・増進を図り、豊かな暮らしを支えるプロフェッショナル、地域づくりの担い手の育成を目的としています。以上のような学部の特徴を生かし、人間健康学部がめざす教員像は、

- ① これからの健康社会の創造を担う子どもの育成をめざす、未来志向をもった人間性豊かな教員
- ② 健康に関する専門的な知識とスキルをいかした教育を展開できる専門職として高い力量をもった教員
- ③ 健康教育を通して家庭や地域と連携し、地域社会を支え築くことのできる協働能力の高い教員

健康栄養学科

地域での実地教育を織り交ぜながら、食と健康の科学、栄養ケアプロセス、地域と食の 3 分野をバランスよく学ぶカリキュラムを整え、管理栄養士の養成を行っています。そのうえで、栄養に関する専門的知識をもち、学校教育現場において、子どもたちの健全な成長につながる給食のマネジメントとともに、「食育」を担い、活躍できる指導力をもった栄養教諭の育成を目的としています。

スポーツ健康学科

運動とスポーツを人文・社会・自然科学などの関連する各分野について、複合的・体系的に学び、地域と連携しながら知識と理論を実践に結びつけることで専門的能力を高め、専門資格を取得しています。そのうえで、運動・スポーツと健康に関する専門的知識をいかし、子どもの運動とスポーツに関連する課題に積極的に関わる総合的な能力をもち、健

康や体力の維持・増進、スポーツの普及発展に高い指導力を発揮することのできる保健体育科教諭や養護教諭の育成を目的としています。

<教育学部>

学校教育学科

教育学部学校教育学科では、次の3点の資質をもった教員養成を念頭において、地域社会に貢献する教育に関する専門性を身につけた人材育成を目指します。

- ① 教育を担う人材として必要な、教養及び専門的知識・技術を身につけている。
- ② 教育を取り巻く状況をよりよくするための思考力を持ち、他者と連携し取り組む能力を身につけている。
- ③ 地域社会が求める教育力において、主体的に探求し続ける能力を身につけ、貢献する意欲を有している。

<大学院 健康科学研究科>

健康科学研究科では、栄養と運動の両分野にわたる高度な専門性を備え、さらに、両分野にまたがって、包括的・複眼的・科学的に「栄養」・「運動」を理解し、それを指導できる高い能力をもった人材の育成を目的としています。

このような本研究科の教育理念を踏まえ、次のような教員像をめざしています。

- ① 食・栄養」と「運動・スポーツ」を統合した「健康科学」の重要性を広い世代に普及できる教員
- ② 健康づくりの将来的基盤づくりを長期にわたって担うことができる教員
- ③ 自分自身も研究マインドをもち続け、生徒に「課題解決能力」を育てることができる教員

〇めざす教師像を実現するための構想

1) 地域社会と協力連携した地域の中での教員養成

授業において地域の多様な人材を学外講師として迎える「教育サポーター制度」、ならびに地域社会それ自体を学習の場とする「アウトキャンパス・スタディ」制度などを活用して、地域社会と密接に協力連携し、地域社会の人々との協働能力を身につけた教員の養成を意図しています。

2) 自己の長所を発見し、協働能力を高めるための活動

総合経営学部・人間健康学部の教職課程では、「学校教育活動」、「地域教育活動」というボランティア活動を内容とする科目を設けています。本学で教員免許を取得するためには、これらのボランティア活動科目の中から1科目を必ず履修する必要があります。これらボランティア関連科目によって、地域社会と主体的、積極的に関わり、その体験を通して、自らの長所を発見したり、実際の地域社会において行われている

教育に対する理解・関心を深めるとともに、主体性、積極性、人間関係の構築能力、社会常識等を身につけ、教科に関する専門科目の学習と相まって、地域社会の人々と連携協力していける協働能力を備えた教員の養成を意図しています。

また、教育学部では、1年次の『学校ボランティア活動』や2年次の『学校インターンシップⅠ』、3年次の『学校インターンシップⅡ』などの実際に教育現場に入って活動をする正課科目が配置されています。これらの活動を通して児童生徒の様子や教員の職場での動きを観察し、把握する力を養うためにも教職をめざす学生は基本的に履修することを推奨しています。これら現場経験を積むことによって、児童生徒や教職員とも交流ができる状況や協同能力を身につけ、最終的にはDPとして定められた3点を修得した教員養成をめざしています。

3) 実践的力量的育成と個性あふれる魅力的な教員となるための科目の開設・設置

学校教育での豊かな教職経験を有する教員の実践的な授業科目を開設し、実践的指導力の基礎の育成を図っています。また、授業内容では、学校現場の授業参観を行うなど、教室での講義から得た知識を実践知として身につけることができるように様々な工夫がなされています。

さらに、「大学が独自に設定する科目」欄に教職系の科目を設置し、学生の授業選択幅を拡大し個性あふれる魅力的な教員の養成も図っています。

4) 学部担当教職センターの開設によるきめ細やかな支援体制

教職センターでは、総合経営学部・人間健康学部で教職課程を履修する学生に対して、総合経営学部・人間健康学部教職センターを開設し、学校教育現場での経験豊かな教職センターの教員が、学業や進路、教育実習に関する不安や疑問など、学生によって異なる幅広い相談に応じています。また、教育学部を担当する教職センターとして教育学部教職センターを開設し、1年次から始まる学校ボランティア活動、2年次に行う学校インターンシップ、3年次で行なう初等教育実習等、各実習の支援や教員採用試験に向けた対策など、幅広い相談に応じています（図1参照）。

教 職 セ ン タ ー			
担 当 学 部	総合経営学部	総経・人間教職センター 教職支援室を4号館2階に設置 (総合経営学部・人間健康学部の学生に具体的なサポート)	事務部門 (全学共通) 7号館2階に 教職センター を設置
	人間健康学部		
	教育学部	教育学部教職センター 教職支援室を8号館3階に設置 (教育学部の学生に具体的なサポート)	

図1 教職センターについて

5) 総経・人間教職センターのM-TOP構想

総経・人間教職センターでは、教職課程に関する履修科目・履修指導、教員の資質・能力の養成に関する指導、教員採用試験に関する指導等を総括し、2019（令和元）年度から

M-TOP (Matsumoto-University Teacher Oriented Program) という名称で包括的に捉えています。

M-TOP構想の趣旨は、総合経営学部および人間健康学部の教職課程を履修する学生の所属アイデンティティと履修の意義を高めることです。総合経営学部および人間健康学部の教職課程には、総合経営学科、観光ホスピタリティ学科、健康栄養学科、スポーツ健康学科の4学科の学生がいます。同じ教職をめざす者として、学生同士が切磋琢磨し合う関係性を築き、教職課程への所属アイデンティティをより高めることをめざすことが、M-TOP構想のねらいです。

教職課程を履修する学生に対しては、学生の希望により、教採模試、面接指導、小論文添削、明星大学通信教育部との連携による教員免許（小学校二種免、高校（地理歴史））の取得、司書教諭資格の取得、教師の指導力に関する指導、ゼミによる特別指導など、様々な指導や取り組みが、ゼミ単位または個別に行われています。こうした学生の教職課程履修に関わる指導の実施形態や学生の取り組み状況をM-TOPという枠組みで把握し、教職課程のアイデンティティを高めていくことが、充実した有効な教員養成につながります。

このように、総経・人間教職センターでは、教職課程に関する全ての取り組みをM-TOPと総称することにより、教員養成の観点から学生の目的意識を一層明確にし、教職課程履修者としての所属感と存在意義を高めることをめざしています。